

PIIA Knots

Knots NEXT 'One World, One Life'

公益社団法人Knots ノッツ・結び目
WEBサイト <http://knots.or.jp>
[今号のメッセージ]

麻布大学獣医学部
教授 菊水 健史

- ♥ 公益社団法人Knots(結び目)は、「人と(ヒト以外の)動物の幸せな共生」をテーマに主に社会教育事業を行っています。
- ♥ Knotsが日頃お世話になっております素敵な皆さまから、メッセージを頂くシリーズです。

イヌはほんとうに不思議な動物です。話しかけるとじつとこちらを見ているし、わかったような顔さえします。飼主の様子をうかがいながら、自分の行動を選択し、ときには飼主を出し抜くことさえあります。

イヌはどうしてそのような術を身につけたのでしょうか。

私たちの研究室ではこれまでヒトとイヌの間に築かれる絆の生物学的メカニズムを解明する研究に取り組んできました。



イヌとのつながり、ホルモン、社会、進化

又が互いに見つめ合うことで、双方に絆ホルモンと言われるオキシトシン分泌が促進され、絆が強化されることを明らかにしました。

また、イヌが飼主の帰宅などの際に再会する

と感情的な涙を流すこと、この涙もオキシトシンの分泌による可能性を見出しました。

ヒトとイヌは気持ちだけでなく、身体も含め全身でつながるしくみを持つていることがわかって

きました。

現在、イヌとヒトの共生がもたらす社会的な影響についても研究を進めています。

散歩に出ると、普段は話すこともないような人たちが挨拶してきて、一気に場が和みます。イ



れる、あの喜びの様子、遊んでいるときのうれしそうな顔、それは一緒にいることをこのうえなく楽しく幸せな気分させてくれます。

ヒトとイヌがともに目覚めるようになってから2万年から3万年が経とうとしています。

又との散歩を通じて地域住民との交流が生まれ、社会的なつながりが強化されることが、ヒトのウェルビーイング向上につながる可能性が見つかりました。

イヌとの生活、例えば帰宅時に迎えてくれる、あの喜びの様子、遊んでいるときのうれしそうな顔、それは一緒にいることをこのうえなく楽しく幸せな気分させてくれます。

私もイヌと生活をしていますが、長い共生の歴史を、その歴史の中で働いていた分子の力を、今この目の前で実感し、体感できる感動が胸を満たすそんな朝を迎えることができています。